

2024年度 第30回 FD・SDフォーラム

FD×SDで 学生の学びと 幸せを支える

2025. 対面

3.1 (SAT) - 2 (SUN)

申込期間

大学コンソーシアム京都加盟大学・短期大学先行申込期間

1.10 (金) 10:00 - 2.7 (金) 17:00

加盟大学以外の方

1.17 (金) 10:00 - 2.7 (金) 17:00

主催：



公益 大学コンソーシアム京都
財団 法人 The Consortium of Universities in Kyoto

後援：文部科学省・京都府・京都市

会場：龍谷大学 深草キャンパス

FD×SDで学生の学びと幸せを支える

21世紀の足音が近寄る1995年度、現場主導の高等教育改善を目指して始まった「FDフォーラム」は今年度、第30回を迎えます。今回からは、SDの要素をより多く取り入れた「FD・SDフォーラム」としてリニューアルし、高等教育の組織的な改善を目指す運動をより高く、広く展開するべく、新しい視点で議論を始めることになりました。

教員主体の教育改善であるFDに対して、SDは主に事務職員の職能向上を目指して展開してきました。しかし近年、SDのS(Staff)は教員・職員の両方を含む概念であることが認識されるようになり、職種を問わず組織された「大学人」として、「学び手」に向き合う時代を迎えようとしているといえます。

これからの時代の「学び手」は、二十歳前後の若者だけにはとどまりません。初等中等教育から高等教育にかけての学びはもちろんのこと、社会人になってからも学び続けることが求められるでしょう。ひとりひとりの人々が、それぞれの生き方に即して生涯学び続けることを尊ぶ時代が来てほしいと思います。

そうした時代に、私たち「大学人」にできることは何か。それは学生の「学び」「幸せ」をひたすら支えるということではないでしょうか。企画に携わった教員・職員の皆で語り合い、その思いを「FD×SDで学生の学びと幸せを支える」という総合テーマに込めました。

ぜひ、教室で、あるいはカウンター越しに、日々向き合っている学生たちの顔を思い浮かべながら、議論に参加していただきたいと思います。

第30回FD・SDフォーラム企画検討委員会 委員長

築地 達郎 (龍谷大学 社会学部 准教授)

スケジュール

3.1 (土)

	第1分科会	混職協働最前線 これからの産学連携	P.2
10:00~12:30	第2分科会	大学のDX——AI時代の組織・システム・教学	P.2
	ワークショップ1	教・職・学で考える大学の学び	P.2
12:30~14:15	ポスターセッション	※コアタイム 13:00~14:00	
14:30~17:00	シンポジウム1	FD×SDで向き合う新しい学び ——学び手ひとりひとりの成長と幸せに寄り添う大学教育を探る——	P.3
17:30~19:00	情報交換会		

3.2 (日)

10:00~12:30	第3分科会	学校教育における生成AI活用の現在と今後の課題	P.4
	第4分科会	発達障がいのある大学生への支援の現状と今後の可能性	P.4
10:00~13:00	ワークショップ2	今さら聞けない奨学金、今こそ話したい学生支援	P.4
	シンポジウム2	地域と大学 ——地域との共生における大学教職員の実践——	P.5
14:00~16:30	ワークショップ3	大学とダイバーシティ	P.6
	ワークショップ4	大学空白地における域学連携と地域活性化	P.6

- ポスターセッションでは、大学コンソーシアム京都加盟校の教職員・学生が実施する特色ある教育に関する取り組みを発表します。
- 情報収集や、参加者間の交流の場としてご利用ください。

第30回FD・SDフォーラム企画検討委員会

委員長

副委員長

- ▶ 築地 達郎 龍谷大学 社会学部 准教授
- ▶ 市川 寛 同志社大学 生命医科学部 教授
- ▶ 石原 慶一 京都薬科大学 薬学部 准教授
- ▶ 川上 浩司 京都先端科学大学 工学部 教授
- ▶ 白鳥 秀卓 京都産業大学 生命科学部 教授
- ▶ 住田 哲郎 京都精華大学 共通教育機構 准教授
- ▶ 多田 泰紘 京都橘大学 経営学部 専任講師

- ▶ 坪井 剛 佛教大学 仏教学部 准教授
- ▶ 塘 利枝子 同志社女子大学 現代社会学部 教授
- ▶ 中西 勝彦 京都文教大学 総合社会学部 助教
- ▶ 根岸 千悠 京都外国語大学 共通教育機構 講師
- ▶ 野村 実 大谷大学 社会学部 講師
- ▶ 横田 明紀 立命館大学 経営学部 教授

分科会・ワークショップ

3.1 (土) 10:00~12:30

第1分科会

定員 160名
(加盟校優先定員:100名)

講義形式

混職協働最前線 これからの産学連携

コンソーシアム京都のFDフォーラムがFD・SDフォーラムとして生まれ変わった。そこで、本分科会では教職協働が必須である産学連携について取り上げる。近年、大学等での研究推進においては、第三の教職員とも称されるリサーチアドミニストレーター (URA) の重要性も指摘されており、教職協働より混職協働と認識すべきかもしれない。さて、産学連携は、単に経済社会の発展に寄与するイノベーションの創出や、国際競争力の維持・向上などの社会への貢献のみにとどまらず、産学連携研究に参加する学生の高度専門性の獲得など教育面への貢献も期待され、その意義は多岐にわたる。急速に加速する少子化などを含むこれからの社会情勢を加味したこれからの産学連携のあり方について考える機会にしたい。

＋コーディネーター

石原 慶一氏 京都薬科大学 薬学部 准教授

＋報告者

野口 義文氏 学校法人立命館 理事、立命館大学 副学長

高橋 真木子氏 金沢工業大学大学院 イノベーションマネジメント研究科 教授、RA協議会副会長

鈴木 忍氏 京都大学 成長戦略本部 統括事業部 イノベーション領域 副統括、京都大学「医学領域」産学連携推進機構 特定教授

3.1 (土) 10:00~12:30

第2分科会

定員 160名
(加盟校優先定員:100名)

講義形式

大学のDX ――AI時代の組織・システム・教学

教育力・研究力の向上、経営の効率化や基盤の強化などにおいて大学のコミュニティに関する多岐の情報の集約・共有・連携が肝要であり、これらを実現するデータプラットフォームの構築と蓄積されたデータの利活用は、大学のDX(デジタル・トランスフォーメーション)を促進する上で不可欠である。また、2022年度末より話題となった生成AIなどを含む有益なデジタル技術の出現と急速な進展とともに「こうしたデジタル技術をどのように組織に取り入れ、活用し、大学のDXを促進していくのか」は、多くの大学で共通した課題となっている。本分科会では先駆的なDXの取り組みを紹介しながら、参加者を含む各大学間でのDXに対する現状や課題を共有したい。

＋コーディネーター

横田 明紀氏 立命館大学 経営学部 教授

川上 浩司氏 京都先端科学大学 工学部 教授

＋報告者

松木平 淳太氏 龍谷大学 副学長 総合情報化機構 機構長、龍谷大学 先端理工学部 教授

鎗水 徹氏 大阪大学 OUDX 推進室 副室長・教授、大阪大学 D3センター DX 研究部門長

浅田 智史氏 学校法人立命館 総合企画部 総合企画課 課長

沼田 耕並氏 滋賀大学 教育学部教務係 主任

3.1 (土) 10:00~12:30

ワークショップ1

定員 30名
(加盟校優先定員:18名)

グループワーク形式

教・職・学で考える大学の学び

FDやSDについての研修やそれに基づく授業、業務の改善が各大学で行われている。しかしながら、これらの取り組みがどれほど学生の活動に効果を与え、大学での学びを促進しているのだろうか。本ワークショップでは、教職員による授業・業務改善や学生支援といった取り組みについて、学生の学びという視点で見つめ直し、その効果と課題について学生、職員、教員で議論する。

本ワークショップは前半の事例紹介と後半のグループワークで構成される。前半の事例紹介では、各大学でのFD・SDの取り組みや、教学マネジメント、IR、学生支援について4名の講師より情報提供いただく。後半のグループワークでは、これら教職員の取り組みに対する学生のフィードバックやコメントをもとに、参加者全員で議論を深めていく。

＋コーディネーター

多田 泰紘氏 京都橋大学 経営学部 専任講師

根岸 千悠氏 京都外国語大学 共通教育機構 講師

＋報告者

竹中 喜一氏 近畿大学 IR・教育支援センター 准教授

石井 和也氏 宇都宮大学 大学教育推進機構 基盤教育センター 准教授

岸岡 奈津子氏 立命館大学 学生部 Student Success Program(SSP) 学生支援コーディネーター

肥田 奈緒子氏 成城大学 教育イノベーションセンター 主任

FD×SD で向き合う新しい学び

—— 学び手ひとりひとりの成長と幸せに寄り添う大学教育を探る ——

大学教育が他から切り離されたシステムとして機能できた時代は去ろうとしている。大学は初等中等教育や社会人教育、生涯教育などのセクターとより有機的に連携しながら、ひとりひとりの学習者の学びに、生涯を通じて向き合える仕組みへの転換が求められている。

また、情報システムや遠隔学習の活用によって、学習者の学びをより小さな単位で保証・認証するマイクロレデンシャルなどの仕組みも急速に進化している。シンポジウムではそのような問題意識と現状認識に立ち、学習者が主体的に学び、自らの学びを編成していく時代に即した大学教育のあり方を探ることにしたい。

＋シンポジスト



井上 雅裕氏 慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 特任教授、芝浦工業大学 名誉教授(元副学長)、大正大学 招聘教授

経歴

1978年早稲田大学理工学部卒、80年早稲田大学大学院理工学研究科修了、同年三菱電機に入社。ミシガン大学客員研究員を経て2005年芝浦工業大学システム理工学部教授。17年～21年副学長。21年から慶應義塾大学大学院特任教授。博士(工学)、技術士(情報工学)、シニア教育士(工学・技術)。

主な活動、著書

JV-Campus / JMOOC マイクロレデンシャル共同WG発起人。一般社団法人PMI日本支部理事・教育国際化委員会委員長、一般財団法人オープンバッジネットワーク理事。ユニベルシタス研究所上席研究員。関連の著作としては、「マイクロレデンシャルがもたらす第三段階教育の革新」、高等教育研究、第27号、2024(日本高等教育学会編)、「大学のデジタル変革：DXによる教育の未来」(東京電機大学出版局)、「学生を成長させる海外留学プログラムの設計」(東信堂、共著)などがある。



松下 佳代氏 京都大学 教育学研究科 教育・人間科学講座(高等教育学コース)教授、大学教育学会 会長

経歴

京都大学教育学部卒業、京都大学大学院教育学研究科博士後期課程学修認定退学。京都大学博士(教育学)。1995年京都大学教育学部助手、97年群馬大学教育学部助教授、2002年京都大学高等教育教授システム開発センター助教授、03年京都大学高等教育研究開発推進センター助教授、04年同教授。22年より現職。2017～23年日本学術会議会員。23年から大学教育学会会長。

主な活動、著書

専門は、教育方法学、大学教育学。とくに、能力、学習、評価をテーマに研究と実践支援を行っている。主な著作に、『〈新しい能力〉は教育を変えるか』(編著、ミネルヴァ書房)、『ディープ・アクティブラーニング』(編著、勁草書房)、『対話型論証による学びのデザイン』(勁草書房)、『ミネルバ大学の設計書』(監訳、東信堂、2024年)、『ミネルバ大学を解剖する』(編著、東信堂、2024年)など。



宮越 敬記氏 京都市立開建高等学校 教頭

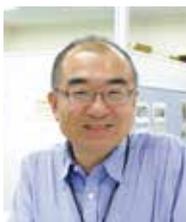
経歴

1978年京都市生まれ。2000年京都教育大学卒業後、京都市立高等学校教諭を経て、2018年京都市教育委員会指導主事。指導主事任職中、京都市立開建高等学校(2023年開校)の開校に関わる。2022年より、京都市立塔南高等学校、京都市立開建高等学校の教頭として、新しい教育のカタチを教職員とともに模索中。

主な活動、著書

京都市立開建高等学校は文部科学省の「新時代に対応した高等学校改革推進事業」の研究指定校として、新しい普通教育の研究に取り組んでいる。教室を4倍の大きさにすると同時に、1クラスあたりの人数を80人とし、クラス担任や教科担当をチーム制にしたりするなど、生徒が「思わず考えなくなる」授業づくりに取り組んでいる。

＋コーディネーター



築地 達郎氏 龍谷大学 社会学部 コミュニティマネジメント学科 准教授

経歴

1960年鳥取県生まれ。福井県、大阪府、秋田県などで育つ。1983年京都大学工学部卒業後、日本経済新聞社に記者として入社。社会の情報化をテーマとした200回余りの長期連載を担当した。1997年、報道業界の革新を目指すメディアベンチャー「報道ネットワーク」と「京都経済新聞社」を独立創業。2005年から現職。2019年から多摩大学情報社会学研究所客員研究員。

主な活動、著書

龍谷大学教学企画部長補佐(FD担当)、社会学部長補佐(情報化担当)。日本広報学会常任理事、情報社会学会理事、関西ベンチャー学会理事、社会情報学会会員、大学教育学会会員。著書に「ビル・ゲイツが大統領になる日—情報化社会に取り残されたミドルエイジの行方」(ウェッジ)、「ロボットだって恋をする」(中公新書ラクレ)、「日本のジャーナリズムとは何か—情報革命化で漂流する第四の権力」(ミネルヴァ書房、共著)など。

分科会・ワークショップ

3.2 (日) 10:00~12:30

第3分科会

定員 160名
(加盟校優先定員:100名)

講義形式

学校教育における生成AI活用の現在と今後の課題

生成AIは、教育現場において非常に大きな可能性を秘めている。単に生徒の学習効率を向上させるだけでなく、教師の指導方法を新たに開発する手助けにもなり得る。本分科会では、実際に授業やその他の業務で生成AIを活用している現場の教師を講師に迎え、具体的な活用事例やその効果、課題等について紹介していただき、参加者間の意見交換を通じて、これから生成AIをどのように授業に取り入れ、また教育効果を最大化できるのかを共に考える機会としたい。本分科会が、教育の未来を見据えた新たな指導法や教育法を模索する一助となり、参加者一人ひとりが自分の現場に適したアイデアを持ち帰れる場になることを願っている。

＋コーディネーター

住田 哲郎氏 京都精華大学 共通教育機構 准教授

＋報告者

渡邊 光輝氏 お茶の水大学附属中学校 教諭

笠原 諭氏 西武学園文理高等学校 教諭

すがや みつる氏 日本マンガ学会会長 漫画家

3.2 (日) 10:00~12:30

第4分科会

定員 160名
(加盟校優先定員:100名)

講義形式

発達障がいのある大学生への支援の現状と今後の可能性

発達障がいのある学生は間違いなく増えている。この発達障がいという分類の大枠は、ASD(自閉スペクトラム症)、ADHD(注意欠如・多動症)、SLD(限局性学習症)のカテゴリーの総称であるが、この分野は、長い間検討されてきた割に医療的にも医学的にも端緒についたばかりである。さらに、近年では発達障がいの概念の拡大とともに医学的視点のウェイトも下がり、生活機能上の支障という条件も変化しつつある。大学保健においても発達障がい者の支援が叫ばれているが、当然基礎的知識無くしては本当の意味の支援とはならない。本分科会では、精神科医でもある龍谷大学の須賀先生を中心に、様々な立場の方々からご意見を伺って、発達障がい学生に対する大学での支援のあり方を皆さんに理解していただける場としたい。

＋コーディネーター

市川 寛氏 同志社大学 生命医科学部 教授

須賀 英道氏 龍谷大学短期大学部 社会福祉学科 教授

＋報告者

広野 ゆい氏 NPO法人DDAC(発達障害をもつ大人の会) 代表

古川 直子氏 親の会はくくみ 会員

渡部 良子氏 滋賀県立精神医療センター 地域生活支援部 社会復帰支援係長

上床 輝久氏 京都教育大学 保健管理センター 教授

加藤 郁子氏 滋賀県立精神医療センター 地域生活支援部 主幹(兼)医療連携係長

窪 貴志氏 株式会社エンカレッジ 代表取締役

3.2 (日) 10:00~13:00

ワークショップ2

定員 30名
(加盟校優先定員:18名)

グループワーク形式

今さら聞けない奨学金、今こそ話したい学生支援

本分科会では、奨学金制度の現状を踏まえ、学生にどのような支援ができるのかをワークショップ形式で議論する。奨学金受給率が3~5割とされる現在、給付型や授業料減免などの新たな支援制度も加わり、奨学金制度はますます複雑化している。一方で、奨学金は担当部署の職員に丸投げしている大学も多く、学生の受給状況や奨学金に関する学生支援上の課題などは可視化されにくい。そこで、本分科会では学生と奨学金との関係を①申請時、②受給中、③返済時、の3つに区分し、各区分に詳しい方々に情報提供を頂く。その後、各区分で生じる学生支援上の課題について、参加者同士で知恵を出し合い、これからの学生支援の方法を具体的に検討したい。奨学金制度に詳しい方からそうでない方まで、さまざまな教職員にご参加頂きたい。

＋コーディネーター

中西 勝彦氏 京都文教大学 総合社会学部 助教

＋報告者

水戸 康德氏 札幌大学 学務部学生課 職員

中山 博文氏 立命館大学 学生部 学生オフィス(衣笠) 課長補佐

山本 愛理氏 京都文教大学 卒業生

地域と大学

—— 地域との共生における大学教職員の実践 ——

本シンポジウムでは、大学と地域の共生の基に、大学は地域のためにどうあるべきかを考えたい。さまざまな立場で活躍されている講演者から、地域と大学の共生のテーマについて講演していただく。大学・地域連携に取り組まれてきたことをご紹介いただき、これからの大学を担う教職員に向けてメッセージをいただく。我々大学の教職員が行うべきことは何か、また大学の教職員の活動は今後どのように広げていくことができるのか、参加者のみなさまからのご意見やご質問もいただいて、討論したい。

＋シンポジスト



大森 昭生氏 共愛学園前橋国際大学 学長

経歴

1968年宮城県仙台市生まれ。東北学院大学大学院博士課程在学中の1996年に前身の共愛学園女子短期大学に着任、国際社会学部長、副学長等を経て、2016年より現職。2021年より短大部学長兼務。専門は米文学・男女共同参画。

全国の学長が目にする学長ランキング3年連続1位(大学は教育で注目4位)、「大学ランキング」。群馬県総合表彰(男女共同参画分野)。

主な活動、著書

中教審では教育振興基本計画部会、教学マネジメント特別委員会、質保証システム部会等の委員を歴任し、現在は大学分科会委員並びに高等教育の在り方に関する特別部会副部会長を務める。内閣官房では、地方創生に資する魅力ある地方大学の実現に向けた検討会議、地方大学・産業創生法施行状況検討に係る有識者会議の委員として地方創生を議論、県では教育振興基本計画策定懇談会座長、青少年健全育成審議会会長など若者の学びにむき合い、市では県都まえばし創成本部有識者会議座長、デジタル田園都市国家構想アーキテクト統括など街づくりに注力している。

主な著書に『アーネスト・ヘミングウェイ—21世紀から読む作家の地平』(共著・編集委員長)、『ヘミングウェイ大事典』(共編著)、『今選ぶなら、地方小規模私立大学! ~偏差値による進路選択からの脱却~』(共著)、『地域に愛される大学のすすめ』(インタビュー)。



森 正美氏 京都文教大学 学長、総合社会学部実践社会学科 教授

経歴

1966年三重県伊勢市生まれ。専門は文化人類学、東南アジア(フィリピン)研究。筑波大学大学院地域研究研究科修了、在学中にフィリピン大学留学。筑波大学大学院歴史人類学研究科博士課程単位取得退学後、1997年に京都文教大学に着任。2022年4月より学長。

京都府、宇治市、京都市などの行政委員等多数歴任。2021年4月より(一社)アーバンデザインセンター宇治代表も務める。

主な活動、著書

京都文教大学に着任後、大学所在の宇治市での地蔵盆調査、宇治橋通り商店街などでのイベント企画を皮切りに、文化人類学的フィールドワーク手法を生かした地域協働型PBLを展開。あらゆる立場の垣根を越えてつながり、力を合わせることを目指して、現在も活動中。本シンポジウム関連著書は、『職場・学校で活かす現場グラフィック—ダイバーシティ時代の可能性をひらくために』(共著) 明石書店(2020)『実践! 防災と協働のまちづくり—住民・企業・行政・大学で地域をつなぐ』(編著) ミネルヴァ書房(2020)など。



三木 仁史氏 元京都市大学政策部長、特定非営利活動法人グローバル人材開発センター 理事、ライフイズテック株式会社 事業開発事業部

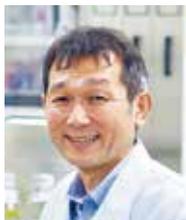
経歴

1987年大阪生まれ。2010年文部科学省入省。私学行政課、高等教育政策室、高校修学支援室などを経て、2021年7月から2023年3月まで京都市大学政策部長へ出向。文部科学省に帰任後、2024年4月に退職し、現在はライフイズテック株式会社で、イノベーション人材の育成に従事。同年6月から特定非営利活動法人グローバル人材開発センター理事も兼務。

主な活動、著書

文部科学省では、入省直後に学校法人行政に従事。その後、第2期教育振興基本計画の策定や、幼保一体化、専門職大学制度の創設を経験。私立高校授業料の実質無償化など政治的な調整が必要なプロジェクト、環境エネルギー分野の研究開発行政などにも携わる。京都市の大学政策部長に出向時には、学生のコロナワクチン接種機会の確保や、大学・学生と、地域・地域企業をつなげる連携事業による京都ならではのまちづくりを進めた。これら経験を基に、第21回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムシンポジウム「地域特性を活かした、大学コンソーシアムへの期待」(2024年9月)や第5回大学コンソーシアム八王子FD・SDフォーラム「大学のキャリア教育・職業教育を今後どう考えるか」(2015年8月)などにも登壇している。

＋コーディネーター



白鳥 秀卓氏 京都産業大学 生命科学部 教授

経歴

静岡県生まれ。1998年東京農工大学農学部獣医学科卒業。2002年大阪大学大学院医学系研究科博士課程修了。博士(医学)。2003年日本学術振興会特別研究員。2004年大阪大学生命機能研究科助手、2007年同助教授、2008年同准教授。2016年京都産業大学総合生命科学部教授、2019年京都産業大学生命科学部教授。2021年10月から2024年9月まで京都産業大学教育支援研究開発センター副センター長を兼務。

主な活動、著書

2021年10月から大学コンソーシアム京都FDフォーラム企画検討委員会委員となり、2022年度は同企画検討委員会の委員長を務めた。本年度からFD・SDフォーラムとしてリニューアルした本フォーラムの企画検討委員会委員として活動してきた。

専門は生命科学、とくに発生生物学。理学情報ジャーナル2024年9月号「解剖学的視点からみた非対称性の意義」など。

分科会・ワークショップ

3.2 (日)
14:00~16:30

ワークショップ3

定員 30名
(加盟校優先定員:18名)



大学とダイバーシティ

京都では以前から留学生が多い地域であったが、最近ではさらに留学生数が増加しており、様々な文化的背景をもつ学生との交流が大学教職員に求められている。日本語を母語とする学生だけではなく、多様な言語、宗教、文化をもつ学生と関わり、大学内のダイバーシティを尊重する姿勢をもつことが、今後の大学の発展に必要となるであろう。多様な人材を育成する大学において、異文化とどのように向き合っていけばよいのか。大学の授業や、日本人学生と留学生との交流イベントで簡単に行うことができる異文化間教育に関するワークショップを紹介するとともに、実際にワークショップを体験して、想像性を働かせながら新しい価値観を創造する楽しさを参加者と共有できればと考えている。

＋コーディネーター

坪井 剛氏 佛敎大学 仏敎学部 准敎授

塘 利枝子氏 同志社女子大学 現代社会学部 敎授

＋報告者

田中 共子氏 岡山大学 社会文化科学学域 敎授

岸 磨貴子氏 明治大学 国際日本学部 敎授

3.2 (日)
14:00~16:30

ワークショップ4

定員 30名
(加盟校優先定員:18名)



大学空白地における域学連携と地域活性化

京都市内には、北部地域を中心に大学のない自治体がいくつか存在するが、たとえば京丹後市では「夢まち創り大学事業」として、現地までの学生の送迎や宿泊などの形でフィールドワークの支援を行っている。2015年の事業開始以来、18大学1団体、のべ8千人以上が参加しており、商品開発や地元の祭の運営・参加、農業など活動内容も多岐にわたっている。この分科会では、京都府北部地域等の「大学空白地」ともいえる大学のない／少ない地域において、大学がいかなる役割を果たすことができるのか、特に域学連携と地域活性化の観点から、京丹後市の「夢まち創り大学事業」や、北部地域での地域連携事業に関わる方々と一緒に考えていきたい。

＋コーディネーター

野村 実氏 大谷大学 社会学部 講師

＋報告者

青木 滉人氏 京丹後市 市長公室政策企画課 主事

井上 健吾氏 有限責任事業組合 まちの人事企画室 CMO

杉岡 秀紀氏 福知山公立大学 地域経営学部 准敎授

＋事前WEB申込

<https://www.consortium.or.jp/project/fd/forum>

- 本フォーラムは事前申込制となっております。申込期間外およびフォーラム当日の参加申込受付は行っておりません。
- シンポジウム・分科会・ワークショップは事前申込制です。但し、分科会については、当日に他の分科会に移動可能です。ワークショップについては、プログラムの変更はできません。
- 複数のシンポジウム・分科会にお申込みいただけますが、開催時間が重なっているプログラムにはお申込みいただけません。

step1 WEBからのお申込み(先着順)

大学コンソーシアム京都WEBページよりお申込みください。

step2 申込完了メールの受信

申込手続き完了後、申込者に「申込完了メール」をお送りいたします。
※翌日になっても「申込完了メール」が届かない場合は、お問い合わせください。

step3 参加費のお支払い

【参加費支払期限：2025.2.13(木)】

申込手続き完了後、WEBサイト等をご確認の上、期限までに参加費をお支払いください。
※支払方法は、クレジット決済・コンビニ決済・口座振込よりお選びいただけます。

step4 「事前配付資料・参加に関するご案内」メールの受信

参加費の支払手続きが完了した方へのみ、2月21日(金)以降、参加者欄記載のメールアドレスに以下をお送りいたします。
特設WEBサイトへのログイン方法をお送りいたします。
特設WEBサイトより事前配付資料をダウンロードいただけます。
※当日、紙媒体での配布はいたしませんので、ご自身のデバイスにダウンロードいただくか、事前にプリントアウトのうえご持参くださいますようお願いいたします(事前配布資料がある企画のみ)。
当日の参加に関するご案内をお送りいたします。

step5 開催当日

当日、会場(龍谷大学)にお越しいただき、ご参加ください。
参加者の方は、当日受付にて「第30回FD・SDフォーラム参加者用マイページ」の画面またはプリントアウトをご提示ください。

- ご来場は、公共交通機関でお越しください。
- 講演会場、分科会、ワークショップ会場では、携帯電話・スマートフォン等の電源をお切りいただくか、マナーモードにするなど、音が出ないようにご配慮をお願いいたします。
- 当日、紙媒体での資料配布はいたしませんので、事前配布資料をご自身のデバイスにダウンロードいただくか、事前にプリントアウトのうえご持参くださいますようお願いいたします(事前配布資料がある企画のみ)。
- シンポジウム会場(和顔館B201教室)での飲食はご遠慮ください。
- 分科会・ワークショップ会場と、和顔館地下1階フロアでの飲食は可能です。
- 大学が春期休業期間中につき、構内の食堂、コンビニは閉店中ですので、昼食は各自ご準備ください。
- 館内は禁煙となっております。
- 当日のwi-fi接続ID・パスワードを配布します。eduroamの利用も可能です。



お申込みはこちらから

申込方法

注意事項

＋会場(龍谷大学 深草キャンパス)へのアクセス



＋ JR奈良線

「稲荷」駅下車、南西へ徒歩約8分

＋ 京阪本線

「龍谷大前深草」駅下車、西へ徒歩約3分

＋ 京都市営地下鉄烏丸線

「くいな橋」駅下車、東へ徒歩約7分

＋ 最寄りのバス停

市バス「龍谷大学前」

- 学内には駐車場がございません。ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。
- 龍谷大学周辺は、宿泊場所の確保が困難な場合があります。
- 龍谷大学からアクセスが良い場所での宿泊場所もお探してください。

＋ 龍谷大学 深草キャンパスマップ



＋ シンポジウム、分科会、ワークショップ会場

和顔館

＋ 情報交換会 会場

4号館

- 構内の食堂、コンビニは閉店中ですので、昼食は各自ご準備ください。
- シンポジウム会場(和顔館B201教室)での飲食はご遠慮ください。
- 分科会・ワークショップ会場と、和顔館地下1階フロアでの飲食は可能です。

申込期間

大学コンソーシアム京都に加盟する大学・短期大学の方を対象に、先行申込期間を設けています。
先行申込期間中は、優先定員までの受付となります。

加盟大学・短期大学の方

2025.1.10(金) 10:00 ~ 2.7(金) 17:00

上記以外の方

2025.1.17(金) 10:00 ~ 2.7(金) 17:00

- 参加されるにあたり、障がい等により情報保障等の合理的配慮が必要な方は、2月7日(金)17時までにFD・SDフォーラム事務局までご連絡ください。申し出に応じて、個別に相談のうえ対応させていただきます。

参加費について

所属	区分	参加費	情報交換会費
加盟 大学・短期大学	教職員	1,000円	4,000円
	学生(大学院生含)	無料	2,000円
非加盟 大学・短期大学 その他団体・企業等	教職員・一般	4,000円	4,000円
	学生(大学院生含)	無料	2,000円

- 開催中止の場合を除いては、理由の如何にかかわらず、参加費の払い戻しはいたしかねます。
- 申込手続き完了後は、申込内容の変更はできませんので、ご注意ください。
- 支払期限は、2025年2月13日(木)です。期日までに支払手続きが完了しない場合は、参加の意思が無いものと判断し、申込を無効とします。
- 所属・区分等の入力不備により、参加費を多く支払われても、返金ができませんので、十分にご注意ください。
なお、参加費が不足している場合は、追って不足分を請求させていただきます。
- 学生(大学院生含)の参加者は、受付にて学生証の提示をお願いします。
- 開催当日時点で、二十歳未満の学生は、アルコール類を用意している関係から情報交換会に申し込みいただけません。
情報交換会に参加される学生は、学生証に記載されている生年月日を確認させていただきます。
学生証に生年月日の記載がない場合は、生年月日が確認できる公的書類(例:運転免許証、パスポート等)を併せてご提示ください。

お問い合わせ先



公益財団法人 大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto
教育開発事業部 FD・SDフォーラム事務局



〒600-8216

京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都内



075-353-9163



075-353-9101



fdf@consortium.or.jp

窓口受付時間：火曜～土曜 9:00～17:00(年末年始を除く)